

令和2年度7月 第1回 学校関係者評価委員会 議事録	
開催日時	令和2年 7月9日(木) 17時00分～19時00分
開催場所	東京工科自動車大学校世田谷校 303 教室
参加委員 (★委員長)	★井組 浩紀・中村 雅一・三羽 和彦・小野 宗憲・佐藤 学・西川 浩之 佐藤 久郎 欠席者なし
参加事務局	佐藤 康夫・武井 和則・麻野 利治
会議録	【次 第】 日 時 令和2年7月9日(木) 17:00～19:00 会 場 東京工科自動車大学校世田谷校 302 教室 - 開会・校長挨拶 東京工科自動車大学校世田谷校 校長 佐藤 康夫 - 委員会成立の確認 - 議長・書記の選出 - 議事 - 議案1 前回議事録について - 議案2 令和元年度 自己評価について - 議案3 令和元年度 事業計画 実績報告 - 就職 - 募集 - 国家資格 - 履修について(進級・卒業・退学) - 教職員FD - 議案4 令和2年度事業計画と取り組み内容 - 事業計画 - 募集 - 就職 - その他 - 意見交換 - 事務連絡(事務局) ・次年度日程の確認(11月13日(金)実施予定) - 閉会 <配布資料> ・議事次第 【資料A】 ・令和元年度 第2回学校関係者評価委員会議事録 【資料B】

	・令和元年度 自己評価点検報告書 【資料C】 ・令和2年度 第一回学校関係者評価委員説明資料 【資料D】
	1. 開会・校長挨拶（世田谷校：校長） 2. 委員会成立の確認（事務局） 会則第5条の基づき、出席者が委員総数の過半の出席を満たしているため成立していることを確認した。 3. 議長選出 事務局より委員の井組氏を書記は大成技研佐藤氏を推薦し、全会一致で承認され、以後進行は議長による。 4. 議事（議長） ・新型コロナ対策のため、短時間での委員会運営を行う必要があり審議については、議事・議案報告終了時に行うこととなった。 ・議事録確認の前に、世田谷校の感染予防対策の報告が行われた。 （事務局・副校長） 令和元年度第1回議事録確認（事務局・副校長） ・事務局より議事内容について議事録を基に確認を行った。 2) 令和元年度自己評価について（事務局・校長） ・事務局より令和元年度自己評価の報告がされた。 3) 令和元年度 事業計画 実績報告（事務局・校長） I. 就職 ・8月末において1級自動車エンジニア科が100%内定したことを 報告、また1級自動車エンジニア科のメーカー系就職率が75%目標であったが令和元年度は、100%であり目標を達成した。 自動車整備科は残念ながら、8月末100%の目標は達成できなかったが10月末100%となったことについて報告された。 II. 募集 ・募集については順調に推移していった。1級自動車エンジニア科の入学が32名であるが、前年度は1クラスであったが32名という2クラスを作るまで伸びた。 MBコースについては、入学24名であるが早い段階で25名という定員は達成していたが、入学の段階で問題が発生し辞退者がでた。しかし、その段階では再度の募集が掛けられない時期であり24名となった。世田谷校全体としては、若干ではあるが入学生増となったことを報告した。 III. 国家資格 ・2級合格率100%、1級筆記試験95.2%、1級の全国平均は約50%、メーカー系就職100%と合わせ1級は非常に良い結果となったことが報告された。 IV. 履修について（進級・卒業・退学）

	・退学率が目標の 5%未満が達成できていない。留学生が増えていることもあるが退学が出てしまう。要因としては、日本語学校時代のアルバイト時間超過でビザの更新が出来ない、学費が払えない。そのような状況で退学率があまり下がっていない。しかし、今後も留学生は受け入れ増やしていかななくてはならない中で、入学時の学費納入等しっかりと対策をしていかななくてはならない旨の報告があった。 V. 教職員 F D ・教職員 F D については、教科書等も新しくなっており積極的に外部の研修に行き新技術や学生指導について向上をはかっていることにつき報告された。 4) 令和元年度事業計画と取り組み内容（事務局・校長・副校長） I. 事業計画 ・就職率、資格、在籍率、進級・卒業率、退学率等の事業計画での取り組み内容、年間目標が報告され承認を得た。 II. 募集 ・令和 2 年度 3 月 4 日時点での募集計画の報告がされたが、数値の下降修正等も今後あるかもしれないが、現時点ではこの計画で行っている。高校の進路指導の現状は、進路指導やガイダンスが全くされていない。4 月からスタートするものが出来ておらず、募集は大打撃を受ける予想があるが、その中でも募集活動に工夫をし、オンラインでのオープンキャンパス開催で簡単に参加できるスタイルを追加している。遅れているが動きとしては悪くない、高校生も遅れた分進路については焦っており、保護者の動きも活発である。コロナの影響で大学を卒業しても就職が困難になっている現状を踏まえ、技術の習得が必要であるとの考えも増えつつある。この様な事から現状では数値の修正は行っていない。募集については以上のことが報告された。 III. 就職 ・8 月末 100%は変わっていない。 1 級自動車エンジニア科のメーカー計就職率目標が昨年 75%であったが、100%を達成したため今年度は 80%に目標を上げた。現在は 52.6%と目標の 80%には厳しい状況であるが、企業から協力も得て受験のほうも進めている。との報告があった。 IV. その他 1) 高等教育無償化 ・令和 2 年度の世田谷校は在校生と新入生あわせて 12 名申請した。現在学園として 4 校まとめて申請手続きを行っている。
--	--

	また、次年度の更新手続きも行っており4校まとめて学園で申請中。手続きに必要な更新情報も申請認可後に公開予定をしている。 2) 小山学園教育日程 ・年間の教育日程の報告がされた。 5. 意見交換（議案についての質問等） 1) 少子化の傾向がどのくらい進んでいるのか、高校卒業生はどの位の減少傾向にあるのか。高校生の進学率はどの位か。（委員） 18歳人口は120万人位で、減少傾向は毎年2～3万人規模で変化している。現在の統計では110万人規模になるという数字がある。 進学率は、高校から大学・専門学校等に行く進学率は8割位、後は就職。大学への進学率は毎年増えている。大学全入時代というが、簡単に大学行くだけではなく、専門のスキルを身に着けるということを、高校側や高校生にしっかり伝えて我々の学校に来ていただく。 大学入学のハードルが高く、大学に行けなかったから専門学校にという時代もあったが、大学に行きやすく専門学校に足が向かない傾向にあり、その層を取り込む必要がある。後は自動車離れでの減少もある。（事務局） 2) 企業は即戦力を求める傾向が強くなっている。短大や大学を出たから就職が出来る状況がなくなっている。専門学校として就職等に強いというメリットを出して行った方がよい。（委員） 技術を持っていない職種から変わってきている。大学入試の方法や中身についても、AIなどの発達とともに、知識延長の大学入試を行っている時代では無くなってきている考えることが必要になり、知識教育を受けていた生徒たちは、これから大学受験をしたときに対応できないという結果となっていくであろう。その時に専門学校はどうなんだろうかと目を向ける時期とも考えられる。この時代に我々が特徴をアピールしていかなくてはいけない。専門学校に対する保護者の意識も変わりつつある。（事務局） 3) 就職について厳しい状況ですが、見通しとしてはどうなのか。（委員） 業界としての求人は衰えていない、人材が不足している状況には変わらない、遅れているのはコロナの影響もあるが結果的には、100%は必ず達成できる状況となっている。（事務局）
--	--

	4) この時期で就職率が75%はすごいと思うが、1級自動車エンジニア科の就職率が滞っている。学生が吟味していてなのか、企業側が滞っているのかななどを教えてほしい。(委員) コロナの影響で、メーカー系企業訪問の時期が遅れたり オンライン受験になったり、企業のペースが遅くなっている。企業訪問を待っている、試験結果を待っている学生は沢山いる。 ディーラー系は1社受験で、結果が出てから次に動くため遅れる場合もある。(事務局) 5) 留学生について 留学生の選考にあたっての審査基準はあるのかまた退学に繋がるアルバイトの状況調査は行っているのか(委員) 1番は日本語の理解力で会話、読み書きができるのかを判断をしている。入学して就職までに伸びる事もある。入学時納付金が収められない者は入学させない。日本語学校時代のアルバイト状況は調べられない。本人の申告を面接時に確認はしている。(事務局) ビザの更新に厳しいのは、国によって違うのか(委員) 経済的や治安の影響で厳しい国があるが、現在はコロナの影響でどこの国厳しい状況。春休みに帰国して日本に入国できない留学生もいて休学等の対処を行っている。(事務局) 委員の質問等が終了し、議長より議案1～議案4についての審議の確認が行われ議案1～議案4について承認された。 6. 事務連絡 次回、令和2年度 第2回学校関係者評価委員会は 11月13日(金) 17:00～ 7. 閉会 令和2年度第1回学校関係者評価委員会が閉会された。 以上
--	--

	
	委員会風景